

令和7年度第2回一関市総合計画審議会 会議録

1 会議名 令和7年度第2回一関市総合計画審議会

2 開催日時 令和7年5月28日（水） 午前10時から正午まで

3 開催場所 一関保健センター 2階 栄養指導室

4 出席者

- (1) 委員 阿部利彦委員、泉賢司委員、伊藤拓也委員、宇津野泉委員、
及川恵理子委員、大内早智子委員、加藤沙央里委員、菊池正人委員、
小岩邦弘委員、西條恵美子委員、佐々木承子委員、東海林訓委員、
菅原美津代委員、千葉真美子委員、徳谷喜久子委員、藤本千二委員、
船山賢治委員、星義弘委員、吉田正弘委員

※欠席者 岩渕一司委員、小野寺忍委員、小山亜希子委員、齊藤裕美委員、
佐藤ひかる委員、千田久美子委員、千田好記委員、吉田捺委員

- (2) 事務局 今野薫市長公室長、飯村昌弘市長公室次長兼政策企画課長、
佐々木さやか政策企画課主任主査、渡辺苑子政策企画課主任主事、

- (3) 一関市総合計画策定支援業務受託者 株式会社邑計画事務所 及川一輝取締役

5 議題

- (1) 次期総合計画前期基本計画における施策の方向性について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 1人（うち報道機関 1社）

8 小岩会長挨拶

前回に引き続き、各施策の目指す姿や現状、課題を解決するための取組などについて意見をいただく。今日この場で内容をまとめる必要はないので、意見をたくさん出していただきたい。

9 議題

次期総合計画前期基本計画における施策の方向性について

事務局から資料No.1に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 目指す姿について、「～なまちとなる」「～なまちとする」という書き方だと、計画最終年度になったときに違和感がある。「～なまち」に統一してはどうか。

25ページ「脱炭素社会の実現」の目指す姿の最後に「経済が活性化するまちとなる」とあるが、目指すのは経済の活性化ではないのではないか。「2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けて、代替エネルギーの生産と消費が地域内で循環する環境に配慮したまち」などの書きの方が、大目標や中目標に合っている。

26ページ「自然と資源の保全」の現状の中にリサイクル率についての記載があるので、目指す姿の中にも「リサイクルによる資源の再利用に取り組むまち」といった内容を入れた方がよい。

32ページ「働くことにつなげる支援」の目指す姿「一関に生きるひとの暮らしを担い、支えることの誇りを感じながら、働くことができる」は、33ページ「働き続けられる環境づくり」の目指す姿であると思う。

また、目指す姿の実現に向けての課題について、目指す姿の実現のためには、新しく始めるところも必要であるが、現在行っている取組を充実させることや、内容によっては滞りなく進めることが大切となることもある。課題というと、できていないことをイメージしてしまい、できている部分が見えなくなる。「目指す姿の実現に向けて」と「目指す姿の実現に向けて必要な取組」といった書き方にした方がよい。

委員 22ページ「まちにつながるひとの拡大」について、参考資料No.1 外国人のアンケート結果の資料を見ると、不便なまちと感じている外国人が多い印象を受けた。

近くにコンビニがなかったり公共交通機関が少なかったりと、様々な不便さがあるが、この不便さを楽しめるような人でないと移住にはつながらないと思っている。一関市で暮らすことの魅力の芯を掴んで育てていかないと、市のPRをして若者が来たとしても、結局は不便さを理由に仙台や東京に転出してしまうことになるのではないか。

28ページ「商業、観光業の振興」について、課題解決のために必要な取組の内容が個別の企業に向けた施策のように感じる。個別の企業への支援策はもちろん必要であるが、例えば商店街全体、市全体をブランド化していくといった視点も必要である。地域のブランド化という視点が明確になれば、例えば30ページ「働く場の創出」や31ページ「起業、事業承継の推進」、33ページ「働き続けられる環境づくり」にも関連して、お金のために働くだけでなく、一関に誇りを持っているから喜んで働きたいという流れにつながり、一関市に住むことのPRが効果的になるのではないか。

委員 一関にある要素をもっと発掘して育てて、一関市で暮らすことの魅力を市内外に対してどう発信していくことが大切だと思うが、計画に落とし込まれると、それぞれの担当部署の課題とそれに対する取組が書かれており、総合化されず、パワーが落ちているように感じる。様々なところに発信という言葉が出てくるが、個別にやっても効果が少ないので、総合的に真剣に考えていかなければな

らない。

12ページ「学びの場の整備」について、高校や高等教育機関における教育環境の整備の中に、一関で学ぶことの魅力の効果的な発信とあり、必要な取組がいくつか書かれているが、学校の魅力そのものが非常に重要である。特色や魅力のある学校をつくるということも加えてはどうか。

21ページ「安全な体制の整備」について、実施計画に記載する内容かもしれないが、防犯灯の整備だけではなく、防犯カメラの設置も入れた方がよい。

32ページ「働くことにつなげる支援」について、現状の中に定年退職したあとに働くことを希望するシニア層が多いとあるが、再就労希望者や希望の職、定年退職後にUターンして就労を希望している人の状況などのデータがあるとよい。人口減少が進み、働く人たちが減っている中では、シニアの労働力は重要な要素である。企業だけに限らず、教育など多分野における専門的人材の確保という視点でも、シニア層が培ってきたスキルを活用することが非常に有効である。

18ページ「つながる機能の整備」について、地域の交通ネットワークを確保する上では、運転手不足は対応しなくてはならない問題であり、大型免許取得の支援策があればよい。

事務局 市の魅力の総合的な発信は重要な視点と捉えており、令和7年3月に策定した総合計画基本構想の「将来像を実現するためのまちづくりの考え方と役割」の中でも「魅力の発信」を項目の1つとして掲げたところである。今後、より具体的に現状や課題を整理していく予定である。

委員 28ページ「商業、観光業の振興」について、商店街に関する調査結果があれば示していただきたい。一関市に限らず、地域の商店街には欲しいものがない場合が多く、大型店舗などに行ってしまう。商店街に新たな役割を与え、意味付けをし直す必要があるのではないか。

また、観光業の振興の中に平泉町との連携とあるが、平泉町だけではなく陸前高田市など、広域での連携も視野に入れた方がよい。

委員 25ページ「脱炭素社会の実現」について、ハード面の課題がない。チップボイラーはコストが高いが、灯油よりもコストがかからない程度になれば導入が進むと思う。市内でボイラーが作れる企業があれば、市内で用意したチップを市内業者が製造したボイラーに使用するという経済の流れができる。

委員 様々なページに、在住外国人が増えてきていることを前提とした必要な取組として多言語表記などが書かれているが、少数の言語までカバーしようとする

と大変だと思うので、やさしい日本語の導入も必要である。

12ページ「学びの場の整備」について、日本語を母国語としない子どもが増えてきている中で、学校における外国人の子ども、親に対してのサポートを現状の中に入れた方がよい。

15ページ「人権の尊重と支え合いの地域づくり」について、現状には在住外国人の地域コミュニティとのつながりの薄さに関する記載があるが、必要な取組の中には関連する記載がないので、地域とのつながりに焦点を当てた取組が必要である。ゴミの分別や防災に関して不安に感じる外国人がいるので、外国人だけではなく日本人も一緒に参加して勉強する機会が大切である。在住外国人はお客さんではないので、市民の一人として日本人を助ける立場にもなり得るので地域でのつながりは重要である。

20ページ「医療、福祉体制の充実」について、外国人の対応に関する現状がない。日本語に不慣れな外国人が病院に行ったときの対応は、お互いに困るところだと思うので、深掘りした方がよい。

21ページ「安全な体制の整備」について、外国人の防災意識の向上が大切であり、外国人に自分たちの命は自分たちで守るという意識も持たせるための取組が必要である。

委員 28ページ「商業、観光業の振興」について、商店街の人たちがどうなりたいか知るためにも、まずは話合いが必要である。観光に来た外国人が商店街の衣料品に行くと、日本製の商品がないため何も買わずに出て行ってしまうという話を聞いた。インバウンドに力を入れるのであればこういったニーズを把握することが大切である。各地域にいる地域おこし協力隊の意見は非常に貴重であり、自分たちだけでは気が付かない視点があるので、そういった方々の意見を聴きながらより良い方向に向かっていけばよい。

13ページ「生涯学習の推進」について、課題解決のために必要な取組に環境の整備とある。整備ももちろん必要だとは思いますが、博物館などお客さんが来てくれないと意味がないので、SNSを活用した発信にも力を入れていただきたい。

委員 12ページ「学びの場の整備」に高等教育機関の誘致という視点がない。

一関市には日本農業遺産に認定されている東稲山があり、これに関係する大学の研究室などがあれば、学びの可能性が広がっていくように思う。若い人、特に20代が一時的にでも一関に来てくれるのは効果があるのではないか。

委員 10ページ「結婚と出産の支援」や11ページ「子育ての支援」について、中目

標ということであれば項目名を考えた方がよいと思っており、子育て支援であれば、国も「こどもまんなか社会の実現」を掲げているので、市の総合計画においてもこれを中目標としてはどうか。子育て支援の目指す姿の対象が保護者に限定されているが、こどもまんなか社会の実現という視点となれば、地域全体で子育てを支えるという言葉が中目標や目指す姿にあってもよい。子どもがいない人たちも対象となるような中目標としてほしい。

また、現状にマイナス面が多いので、プラスの部分も取り上げていただきたい。全国ランキングの結果など、一関市が子育て支援に力を入れているということをアピールしてほしい。「課題」という言葉自体がマイナスのイメージを与えてしまうので違う言葉に変えた方がよい。

子どもを持ちたい、結婚したいという気持ちは、幼児期や青年期の経験によりプラスのイメージにつながると思うので、子どものときから子育て中の親子と関わりを持つことができるような機会を設けることが重要である。

結婚を希望する人への支援の中に出会いの場の創出があるが、娯楽施設があって、そこに若者同士が自然と集って、そこで知り合って結婚する流れもあると思うので、そのような視点もあるとよい。

11ページ「子育ての支援」の目指す姿には地域全体でという言葉を入れてほしい。「こどもを持つすべての市民が社会や地域の助けを受け」とあるが、助けを受けないと子育てができないというように見えてしまう。地域の方たちが子どもと関わることで生活が豊かになるというような内容とした方がよいのではないか。また、目指す姿の実現に向けての課題の1つ目が、子育てに対する不安の解消とマイナスなイメージのもののため、地域全体で子育てを支える意識醸成と体制づくりを1つ目にして、世の中は変わってきているということ、親子だけで子育てをする時代ではないということを伝えてはどうか。同じように、子育てに関する支援の中で、最初に支援を要する親子の早期発見という、対象が狭くマイナスなイメージを抱く文言があるので、対象が広いプラスのイメージのものを先にした方がよい。

12ページ「学びの場の整備」について、大目標で「学びによる可能性を広げるまち」を掲げる中で、中目標が「学びの場の整備」という言葉だけなのはもったいないので、違う言葉を考えてほしい。目指す姿の「豊かな成長」という言葉に違和感があるので修正をお願いしたい。また、取組の方向性の中には、魅力ある学校づくりや多様な教育機会などの言葉が入ってきてもよい。

委員 一関市がこれまで取り組んできて効果があったことなども記載して、それも

踏まえて取組の方向性を組み立てた方がよい。記載されている取組などを見ると、当たり前なことばかりで、他の市町村と比べて一関市はどれだけ頑張っているか、どれだけ独自の取組があるのかという点が見えてこない、魅力の発信にもつながらない。

また、成果指標が今後定められるが、計画最終年度になったときに、方向性が正しかったのかチェックする機会があるのかが気になるところである。

委員 26ページ「自然と資源の保全」の中で、ごみ処理場の問題に触れなくてもよい。

委員 32ページ「働くことにつなげる支援」について、就労を希望するシニア層は多いが受入先がないということがよくある。就職訓練から就職につなげる支援をお願いしたい。

33ページ「働き続けられる環境づくり」について、個別計画や実施計画でも働きやすい職場環境づくりへの支援をお願いしたい。また、必要な取組の中に技術や資格の取得のための支援の記載があるが、外国人労働者が資格を取ろうとした際に、通訳の経費がかかるなど会社の負担があるので、そこに対する支援もお願いしたい。

委員 魅力の発信という話が出ているが、思い込みの魅力を押し付けているような気がする。魅力は第三者が判断するものである。

子育て支援の関係で、望まれないで生まれた子ども、望んでも子どもが生まれない人まで踏み込まないと、誰もが住みやすいまちにはならないのではない。それが結果的に魅力につながると思う。

委員 12ページ「学びの場の整備」について、必要な取組の中に絵本などを活用したことばの時間の実施とあるが、具体的すぎる。これを入れるのであれば、ほかにも入れなければならない項目が出てくる。また、支援が必要な子どもに対応するための人的体制の確保とあるが、支援が必要な子どもに限定する必要はないと思う。それよりは、幼保小の架け橋期プログラムなどを入れた方が、対象が広がってよいのではない。

委員 12ページ「学びの場の整備」について、小学校へつながる幼児教育とあるが、小学校も幼稚園や保育園とつながる視点も必要であり、お互いの理解が必要である。

多様な価値観や家庭環境がある中で、揃える教育には限界が来ており、学校教育を充実させるためには信頼と理解がより一層重要になってきている。

委員 12ページ「学びの場の整備」について、外国人の子ども向けの学校を整備す

るのも一関市の一つの魅力になると思う。

元気な高齢者に対する取組は見つけられたが、介護が必要な高齢者に対する取組が見つけられなかった。子育て支援に力を入れるのであれば、高齢者になっても安心して暮らすことができることもアピールができればよいのではないかな。

事務局 介護については、20ページ「医療、福祉体制の充実」の中に記載をしている。

委員 12ページ「学びの場の整備」、13ページ「生涯学習の推進」について、学びの場の整備の目指す姿に「すべてのこどもが」とあるので、対象が子どもに限定されており、学校教育だけを指している。それ以降の青年期、壮年期の人たちの学びの場の整備も入れていただきたい。生涯学習の推進の方に入れるということであれば、もう少し総括的に明確な記載をしてほしい。

委員 10ページ「結婚と出産の支援」について、結婚を希望する人の支援に関する必要な取組に相談窓口の設置などがあるが、結婚支援に携わってみて必要なのはそこではないと感じている。13ページ「生涯学習の推進」に関連して、市民センター単位で学びやスポーツのサークルを設けて、仕事終わりに参加するような、日常的な活動の中に出会いを作るの方が重要であると思う。

事務局 ごみ処理場に関しては一関地区広域行政組合が管轄しており、教育の分野も私立の学校もあるので市の計画の中に書くことが難しいものもある。委員の皆様には今後も様々なご意見をいただきたいが計画へ反映しきれない部分もあると思われ、事務局も最大限の工夫をしたいと考えているためご理解をいただきたい。

また、評価をしながら計画を作っていくというのは重要であり、9月頃に現計画の評価をまとめたものを示したいと考えている。

12 担当課 市長公室政策企画課